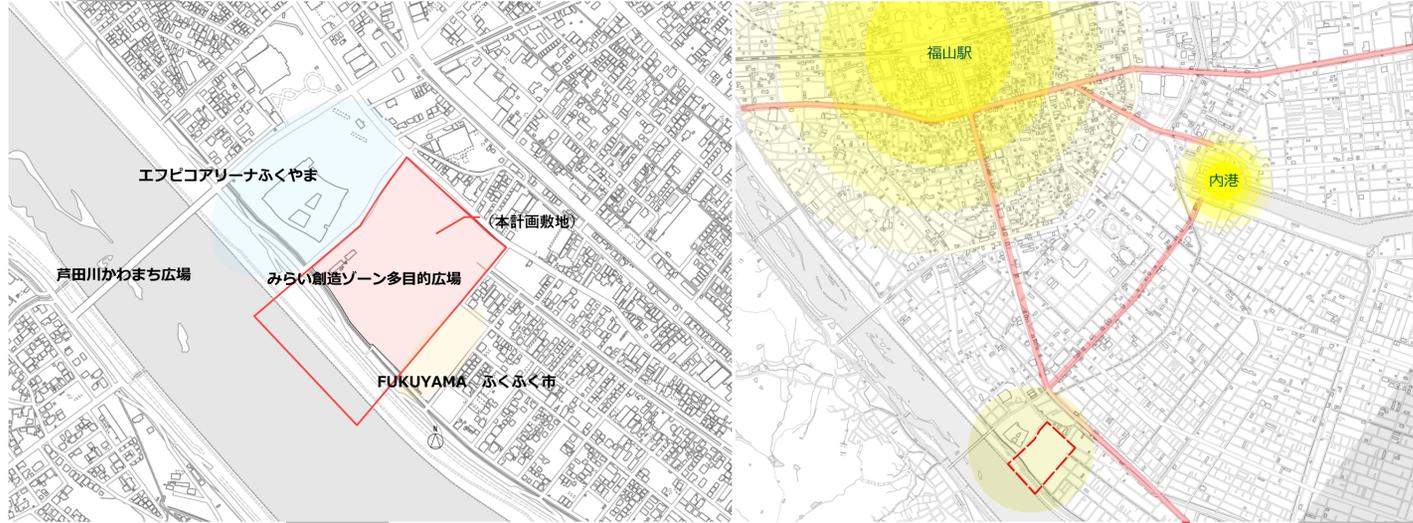


にぎわい交差点

まちとひと 変化し続けるこの時代に変わらないにぎわいを

模型の縮尺が小さいので
模型についている虫眼鏡から
覗いてみてください

01 計画敷地(福山市営競馬場跡地)概要



活躍を終えた市営競馬場跡地は福山市中心部に残された唯一の広大な土地として福山市営競馬場跡地活用基本構想が制定され、社会経済環境の変化を見据えた長期的視点での利活用が求められる。

市の中心部は歴史・文化エリア（駅北）商業を中心に多様な都市機能が集積したエリア（駅南）からなる福山駅周辺地区、新都市ゾーンとして商業・文化等の機能集積が進む内港周辺地区で形成されている。競馬場跡地は市中心部にあり、芦田川に面し自然と都市機能が集積する中心市街地と周辺市街地との接点であるとともに、中心市街地と鞆の浦など市南部の観光地域との間に位置し、福山駅や山陽自動車道のインターチェンジから比較的近いなど、広域アクセスに優れた場所に立地している。

02 計画の基本方針とコンセプト

①市街地と自然の接点



市街地中心部に残る唯一の広大な土地であるとともに自然（河川や山）との接点となる特殊な立地特性

③エフビコアリーナふくやまの軸を活用



規則的な空間と流動的な空間を結ぶグラデーションを持つ敷地軸を形成することにより敷地一帯に象徴性をもたす。

②規則的に整えられた市街地



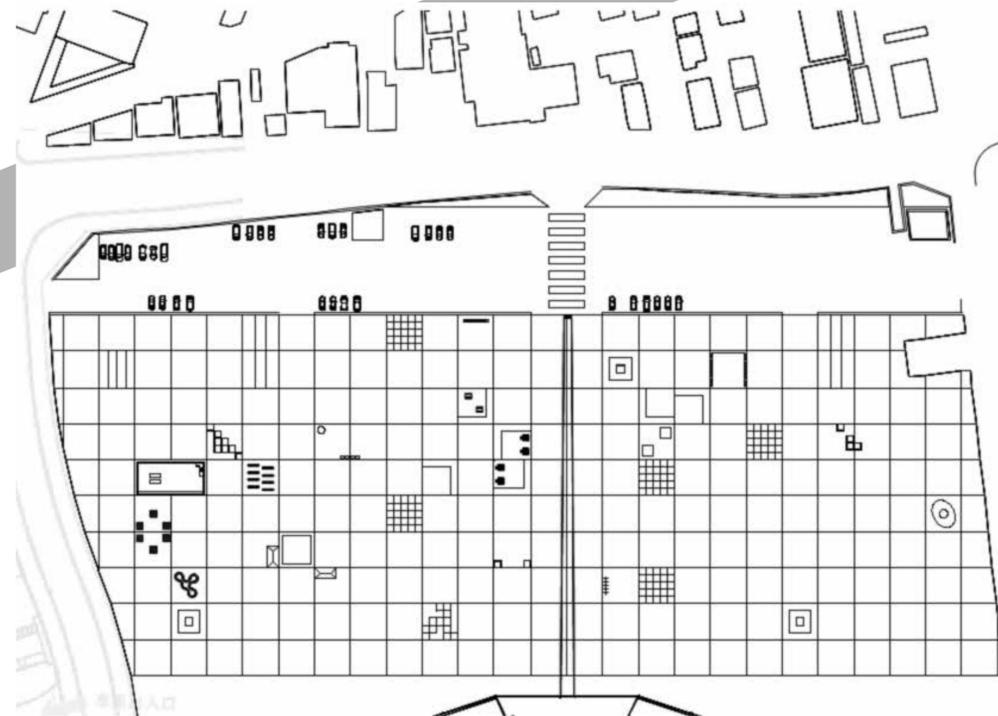
敷地周辺は全体的に街区整備され整えられている。整備された街並みは市民になじみがあるため、この地区構成を活用した計画を提案する。

03 配置計画



- A 規則的な市街地区画(10mグリッドフレキシブル空間)**
10mグリッドフレキシブル空間は本計画の玄関口の役割を持つ。
市街地との関係を形状に落としつつ、広大な土地の中で漠然としがちな公共空間の範囲をヒューマンスケールに落とし込んだ構成になっている。
- B 市街地と自然の接点 交流点(敷地中央空間)**
敷地全体を構成するグラデーションの中間部分「整形」と「流動」の接点にあたり、人々の動きの中心になる。
- C 楕円形スロープ**
スロープを活用し様々なパターンで屋外競技場として利用できる芝生空間
緩やかなスロープは敷地一帯を望むことができ、分断されていた河川敷堤防空間との快適なアクセスを実現する橋の機能を持つ。
ランニングコースとしても市民の健康に貢献する構造物となる。
- D 円形展望台と河川敷堤防 遊歩道**
完全な歩車分離を行うことにより開かれた憩いの空間。
自然と市街地の中間地点でスポーツや各々の会話に花を咲かせ穏やかな時間を過ごすことのできる場所。
- E 河川敷空間(屋外スポーツ) 芦田川デッキ**
現在の河川敷空間にはない親水空間の一環としてデッキを設ける。

04 10mグリッドフレキシブル空間の計画方針 - A



市の公共建築には、市民の意見を取り入れつつ安心感を与え愛されるまちづくりを行う上で**長期的な視点**を持つ必要がある。
最初の工事ではエフビコアリーナふくやまとの関連を持たせた設備のほかに以下の施設を周辺環境に配慮しながら配置する。

- ・ 備蓄倉庫
- ・ 子ども用遊具
- ・ キッチンカー
- ・ 休憩所、ベンチ
- ・ レストラン
- ・ スポーツショップ
- ・ ワークスペース
- ・ 2mグリッド空間

05 スポーツの3要素

スポーツを **する**



スポーツを **観る**



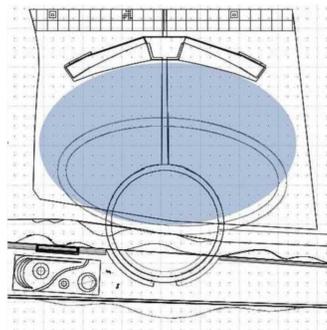
スポーツを **支える**



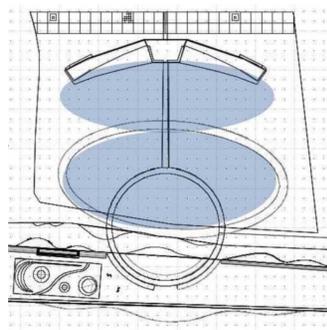
06 市街地と自然の接点 交差点（敷地中央空間） - B



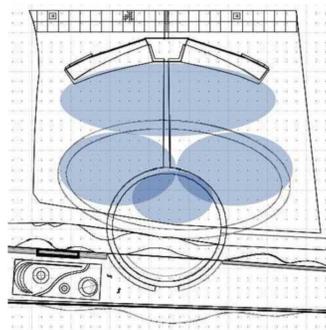
07 芝生広場の活用



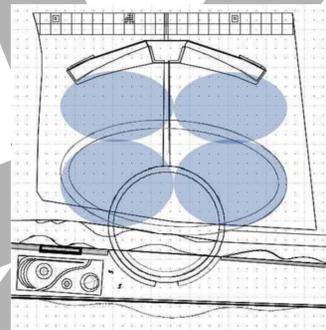
敷地全体を同じ用途で利用する。
街を挙げての大型イベントなどに使用



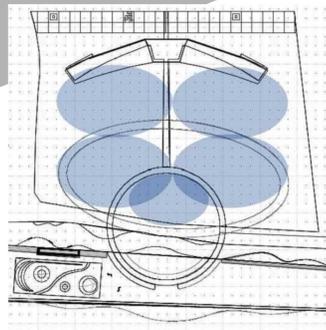
敷地を大きく2分割して利用する。
小規模スポーツイベントなどの場合同時開催が可能



楕円形スロープ内のみを分割して利用する。
コートの異なるスポーツを行う際に適している。



一部をイベント・一部をスポーツ利用など状況に合わせてフレキシブルに利用する。
楕円形スロープを屋根や観戦スペースなどに活用することで曖昧な境界を実現し利用の幅を広げられる。



08 楕円形スロープの様子



09 将来像 今後のあるべき姿

時代

ニーズ

時間

人

これからも続く地域の歴史を市の中心部で守り、
様々なものの交流点（交差点）として大きく俯瞰し、
にぎわいをもたらし続ける場所となる。